

基本目標1 地域の支え合いの仕組みづくり

基本的な考え方	重点取組	評価指標	現状値（R3）	目標値	R5	達成度
1 多様な主体による地域福祉活動の促進	ボランティア活動の促進	社協ボランティアセンター登録者数	・503グループ (24,825人) ・276人	↗	・526グループ (25,541人) ・374人	順調
		社会貢献活動に取り組んでいる法人・団体数	2,468法人・団体	↗	2,727法人・団体	順調
2 包括的な相談支援体制の充実	総合相談体制の推進	総合相談窓口相談件数	実件数573件 (H30)	↗	よりそい支援課 876件 各支所 82件 社協 465件	順調
		アウトリーチ支援数	—	↗	2,739件	順調
	多分野の連携によるネットワーク形成	多職種連携研修・会議の開催回数	101回	↗	93回	やや減少

特筆すべき事項

◎豊田市社会福祉協議会ボランティアセンター登録者数

登録数は現状値に比べ、個人・グループともに増加した。個人では、能登半島地震の影響もあり、災害ボランティアの登録数が増加した。グループでは、環境、生活、高齢分野での登録が多くあった。

◎社会貢献活動に取り組んでいる法人・団体数

ささえあいネット登録推奨に向けて、市内全域に点在するようなチェーン店について、本社等取りまとめている部署に協力を依頼したことにより登録件数がR4年度から32件増加し、地域の事業所等（ささえあいネット協力機関では無い事業所を含む。）からの情報提供により、高齢者の心身の異常の早期発見や、支援につながったケースが多々あった。

◎総合相談窓口相談件数

複雑化・複合化した困りごとについて、福祉部・子ども部（現：こども・若者部）・保健部・教育委員会など部局を超えて支援機関を招集し、支援検討を行う多機関協働体制を構築して支援を進めた。

◎多職種連携研修・会議の開催回数

多職種で自立支援を考える会では、ケーススタディを通して多職種の視点を学び合うことができた。また、経年的に蓄積されている地域課題に繋がるキーワードについて、立ち上げから5年間(H30～R4)のまとめとして、分類分けするなどして一覧表として整理した。

基本目標1 地域の支え合いの仕組みづくり

基本的な考え方	重点取組	評価指標	現状値（R3）	目標値	R5	達成度
3 暮らしを支える環境整備	相互理解の促進と意思疎通の円滑化	理解啓発事業の実施数	6回	↗	11回	順調
	認知症高齢者、障がい者などの権利擁護の推進	成年後見制度相談者数	271人	↗	289人	順調
		多様な主体が権利擁護支援に関わることができる仕組みづくり	—	仕組みの構築	構築中	順調
	ヤングケアラー支援の推進	ヤングケアラー支援体制の構築	—	体制の構築	構築中	順調
	福祉的支援による再犯防止の推進	刑事司法関係機関と連携した支援体制の構築	—	体制の構築	構築中	順調
	避難行動要支援者対策の推進	支援モデル事例集の作成	—	事例集の作成	作成中	順調
出前講座等（防災訓練支援含む）実施数		—	↗	19回	順調	

特筆すべき事項

- ◎理解啓発事業の実施数
理解啓発事業の一環として、要配慮者への理解促進のための動画を作成し、SNS（YouTube,Instagram,TikTok）で広告を掲載した。
- ◎多様な主体が権利擁護支援に関わることができる仕組みづくり
仕組みを成熟化させるために、とよた意思決定フォロワー（意思決定支持者。定期的な訪問をし、本人らしい生活の基盤となる本人の意思決定の後押しをする人）の養成講座を開始した。
- ◎ヤングケアラー支援体制の構築
小中学校教員に対し、ヤングケアラーの周知及びチェックリストについて研修を実施し、意識醸成を図った。
- ◎刑事司法関係機関と連携した支援体制の構築
対象者が地域に戻ってきた際に、スムーズに支援が始められるよう、案件受理後に刑事司法関係機関と「支援会議」を実施した。
- ◎出前講座等（防災訓練支援含む）実施数
地域自立支援協議会と共働することで、防災訓練の際に、避難行動要支援者の模擬による自宅訪問や一時避難場所までの避難同行などの実践を一部地域で実施することができた。

基本目標2 地域福祉の担い手づくり

基本的な考え方	重点取組	評価指標	現状値 (R3)	目標値	R5	達成度
1 地域福祉に関わる人材の裾野拡大	住民福祉教育の推進	福祉実践教室の交流プログラムの開催数	40校87回	↗	43校108回	順調
		とよた市民福祉大学修了生の数（延べ）	332人	↗	456人	順調
2 福祉サービスを担う専門人材の確保・育成	専門人材の確保・育成	担い手を確保するための取組の参加者総数（延べ）	1,321人	↗	1,705人	順調
	事業所の体制強化	他の法人と共同で事業（研修など）を行っている法人数	57法人	↗	R7の高齢者等実態調査で確認予定	—
3 地域福祉人材を活躍の場に着実に つなぐ仕組みの検討	地域福祉人材の登録・ マッチングなど活動支援の 仕組みづくり	地域福祉人材の登録・マッチングなど活動支援の仕組みの構築	—	仕組みの構築	検討開始	概ね順調

特筆すべき事項

◎福祉実践教室の交流プログラムの開催数

- ・交流プログラムの内容について、講師との交流後の振り返り内容について検討を行った。児童・生徒に交流プログラムで感じたことをもとに、どのようにすれば地域で多様な方が暮らしやすくなるのか、自分たちにできることはどんなことなのかを考え、発表したことで、我が事として考えられるようになった。
- ・講師が集まり「支援を求める声を上げやすい（発見できる）社会の構築への模索」について、どのような内容を伝えることができるのかを検討した。

◎とよた市民福祉大学修了生の数（延べ）

修了生の活躍支援として、生活困窮者の引っ越し作業や自宅の片付けなどの活動に繋いだ。

◎担い手を確保するための取組の参加者総数（延べ）

小・中学校における高齢者理解授業を実施し、158人が授業に参加した。事業所の従業員や地域包括支援センターの職員が授業に携わることで、現場の経験や知識を参加者へ伝えることができた。

◎地域福祉人材の登録・マッチングなど活動支援の仕組みの構築

担い手づくりや活動支援を行う中間支援団体や行政等へのヒアリングで現状や課題の把握を行い、求められる取組について検討した。 3

基本目標3 誰もがいつまでも活躍できる仕組みづくり

基本的な考え方	重点取組	評価指標	現状値 (R3)	目標値	R5	達成度
社会参加・就労につながる仕組みの構築	居場所・社会参加の機会の拡大	多様な多世代が交流・活躍できる居場所の総数	382か所	↗	343か所	やや減少
	生きがい・就労機会の創出	生きがい・就労支援の実施数	—	↗	72人	順調

特筆すべき事項

◎多様な多世代が交流・活躍できる居場所の総数

(とよた多世代参加支援プロジェクト)

・既存の支援策がない場合、新たな支援策を創出するため、とよた多世代参加支援プロジェクトが新たな居場所の創出等の基盤づくりの活動を年277回実施した。

(認知症に関する事業)

・交流会を1回実施した。愛知工業大学建築学ゼミと連携し、認知症カフェにアンケートやヒアリングを実施。フィードバック研修を1回行った。

・とよた多世代参加支援プロジェクトに、認知症の人の社会参加の場や機会とのマッチング支援を委託し、実施した。

・企業や介護・障がいサービス事業所、地域包括支援センター等を対象に、とよた多世代参加支援プロジェクトの協力のもと、認知症社会参加支援交流会を開催した。

(若者サポートステーション事業)

・LINE相談やアウトリーチ、オンラインゲーム「Minecraft（マイクラフト）」を用いた相談事業等に新たに取り組み、自宅から気軽に相談できる体制を整えた。

◎生きがい・就労機会の創出

・内職サロンを開催してから、地域包括支援センターや福祉事業所からの問合せがあり、各事業所の相談者をシルバー人材センターに繋ぐケースも出てきた。繋がれたシルバー人材センターは丁寧にコーディネートし、内職サロン等に就いてもらっている。

・中高年齢者向け就労支援セミナー（年間24回）の開催、国・県と共催で中高年齢者向け就労相談会やセミナー（年間3回）を開催したことで、参加者の1～2割が就職決定に繋がった。セミナー等参加者の9割以上から就労を含め、今後の生き方を考える良い機会になったとの評価を得ている。

基本目標4 地域福祉を推進するための基盤づくり

基本的な考え方	重点取組	評価指標	策定時	目標値	R4	達成度
福祉風土の醸成	住民及び福祉に携わる団体、企業などの連携強化	—	—	—	—	—
	支援を求める声を上げやすい（発見できる）社会の構築	—	—	—	—	—

特筆すべき事項

◎ 第5回地域共生社会推進全国サミットinとよたを10/12、13に実施し、延べ2077人が参加し、地域共生社会の推進に向けた意識変容、新たな参加や取組を行うきっかけを提供した。

【全国サミットの様子】



パネルディスカッション



内閣官房参与総評

地域共生社会推進全国サミット in とよた 実績報告

1 開催概要

10月12日（木）、13日（金）
豊田市コンサートホール、能楽堂、名鉄トヨタホテル



2 実績報告（2日間計）

(1) 参加者数

合計：2,077名

注：当日スタッフ、ボランティア等を除く



(2) 参加方法

現地：1,497名、オンライン：380名、メタバース：200名
注：10月12日（木）大会第1日目はコンサートホール満席のため、パビュリックビューイング会場を能楽堂へ設置

(3) 参加区分

市内：1,039名
市外：1,038名（内訳）県内市外：287名、県外751名

【参考】参加都道府県数：39都道府県

〔 愛知県1,326名、滋賀県180名、大阪府86名、奈良県50名、三重県34名、岐阜県32名、福井県32名 他 〕

(4) 職種

一般市民：233名、福祉事業者：418名、行政職員：416名
社会福祉協議会：412名、民生委員：164名、その他：435名
注：その他は、来賓・招待者・登壇者を含む